



はすだね通信

みんなで進めよう
茨城農業改革

第52号

土浦地域農業改良普及センター

平成27年1月7日発行

ミシシippアカミミガメの調査結果について

一昨年、徳島県においてミシシippアカミミガメによるレンコンの新芽の被害がメディアで多数報道された影響で、茨城県での被害を心配する生産者の方も少なくありません。そこで、普及センターでは平成26年に土浦市内の二つの地域において、ミシシippアカミミガメの調査を行いました。今回はその調査結果等について御報告します。

調査結果まとめ

これまでの知見や今回の調査で明らかになった要点は以下の通りです

1. ミシシippアカミミガメは、ハスの芽や伸長した若い茎葉は食べますが、可食部(レンコン)は食べません。

土壤表面からレンコンが露出した場合でも、節間の根は食べますが、可食部への食害は確認されていません。

2. 土浦市のハス田にもミシシippアカミミガメはいますが、生息する圃場は今のところ少数です。

普段、ハス田で見かけるカメの大部分はクサガメです。

ミシシippアカミミガメについて

アカミミガメの名前のおり頭の両側に見られる橙赤色の斑紋が特徴的で、甲羅に黄色や黒のしまがで、腹側は黄色地に黒い紋を持つカメで、要注意外来生物に指定されています。

元々はアメリカ大陸に生息していたカメですが、「ミドリガメ」として子ガメがお祭りの景品やペット用に輸入され、大量に日本に定着した外来種です。日本全国の池や河川、水路等で普通に見られます。雑食性で、水草のほか、貝や昆虫、水鳥のヒナ、魚の死体など様々なものを食べます。



ミシシippアカミミガメの子ガメ
(頭に橙赤色の斑紋が見えます)



ミシシippアカミミガメの甲羅の背側
(オスは歳をとると黒っぽい色になります)

農業は正しく安全に使いましょう!!!



ミシシippアカミガメの甲羅の腹側
(オスは歳をとると黒っぽい色になります)



クサガメ(頭の斑紋もなく、甲羅も黒い)

土浦市内での捕獲調査

土浦市内の二地区において、ワナ(カニかご)を使った方法を用いて、延べ 36 ほ場で捕獲調査を行いました。その結果、1 ほ場でミシシippアカミガメが捕獲され、その他ほ場ではクサガメのみが捕獲されました。生産者への聞き取りによると、ミシシippアカミガメが捕獲されたほ場においても、ハスへの被害は確認されませんでした。今回調査した場所以外でも、生産者からは目撃情報(実際に撮影した写真も合わせて)は寄せられていますが、現状では密度は極めて少ないと考えられます。



捕獲時の様子(このときは全てクサガメ)

表 土浦市二地区(A、B)におけるワナ設置によるカメ捕獲調査結果

調査 地区	ワナ設置 延べ日数	ワナ設置 延べほ場数	ミシシippアカミガメ		クサガメ	
			捕獲ほ場数	捕獲頭数	捕獲ほ場数	捕獲頭数
A地区	52日間	22	0	0	5	13
B地区	41日間	14	1 ¹⁾	4	14	175

1) ミシシippアカミガメが捕獲されたほ場では三回調査を行ったが、捕獲は最初の一回のみ。

ミシシippアカミガメによるハスへの被害

佐賀大学等の調査によると、ミシシippアカミガメによるハスへの被害は、芽や若い茎葉を食害することで生ずる生育阻害です。地下部の可食部(レンコン)への被害は確認されていません。今回の普及センターの調査においても、複数の個体が捕獲されたほ場の生産者への聞き取りでは、レンコンへの被害は認められませんでした。したがって、ミシシippアカミガメは、生息はわずかに認められるものの、ハスに対して目立った被害を出すほどの影響はないと考えられます。

なお、クサガメについても、生産者への聞き取りでは、1 回のワナ設置で 25 頭と多数の個体が捕獲されたほ場でも被害は認められませんでした。

※注意事項…アカミガメを万が一捕獲した場合、飼育するあてが無く殺処分するときにはできるだけ苦痛を与えない方法で行ってください。一般的には冷凍庫に入れて低温によって殺処分する方法が取られます。